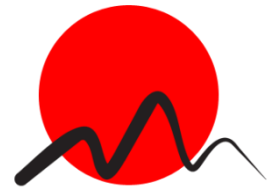


Slovenia Monthly *May 2017* vol.3-no.5

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年6月7日



～5月の主なポイント～

- 政治：** スロベニア、EU難民再移転計画により割り当てられた567人受入れのうち、30%を達成。欧州理事会、シェンゲン域内国境における暫定的国境管理の延長を決定。パウル大統領、外交関係樹立25周年を記念してプーチン・ロシア大統領と電話会談。ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣、「一帯一路」会合への出席のため中国訪問。
- 経済：** Moody's及びFitch、主要3銀行の格付けを引上げ。第1四半期のGDP成長率5.3%を記録、失業率は7.8%へ低下。IMF、スロベニア政府に対して更なる構造改革、民営化の促進、及び財政改革を呼びかけ。
- 社会：** スロベニア人科学者、新たな4重らせん構造のDNAを発見。

政治

【内政】

●難民の再移転計画は順調【12日】

本年6月1日より新たに設置される移民統合局のポトチャル局長代理は、EU難民再移転計画により1年前に移転が開始して以来、スロベニアが割り当てられた567人のうち移民172名を受け入れており、割り当ての30%を達成した旨述べた。また、第3国からの再定住に関しては、難民60名の受入れを約束しているが、まだ一人も到着していない。ポトチャル局長代理は、新移民統合局は、あらゆる関係省庁及び地元コミュニティ及びNGOと協力していく旨述べた。

●ヤンシャ民主党党首、8期目当選【14日、20日】

1993年より野党民主党(SDS)の党首を切れ目なく努めてきたヤンシャ氏が、20日の党大会にて、投じられた全673票のうち666票を獲得し、ほぼ満場一致で8度目の当選を果たした。同氏は、SDSの方針として、スロベニアの文化及び将来を確保するために大家族を推奨し、外国との文化交流は歓迎するものの、高齢化するスロベニアにとって移民政策等は解決策ではないと断言し、さらに、欧州及びNATOの枠組を支持するが、フランス・ドイツ主導の

機関に乗り合わせるだけのヨーロッパならば支持できないと述べた。なお、ヤンシャ氏は、2018年の国民議会選挙でSDSが勝利を納めた暁には首相となるべく野心を表明している。

●サイバー攻撃による被害状況【14日、16日】

スロベニア国内では、仏ルノー社の子会社であるレボズ社の自動車組立工場がサイバー攻撃を受けて12日から13日にかけて操業中止を余儀なくされ、このため自動車400台を製造出来なかった。スロベニア国内での被害の通報は8件のみであったが、今年4月に政府が設立した機密情報防護室のドブラン・ボジッチ室長代行は、実際の被害件数はさらに多いはずであると推測している。

16日、国家安全保障理事会は、サイバーセキュリティ、移民問題、テロ脅威レベルについて協議し、ツェラル首相は、サイバーセキュリティは、政府の優先事項の一つであると発言した。ヤン・マフニッチ・スロベニア国会国防委員会委員長は、リュブリャナ大学医療センター等複数の医療機関も攻撃を受けたが、我々の防御システムによりかわすことが出来たと発言した。

●パウル大統領、軍を称賛【11日、15日】

15日に開催された軍創設記念式典において、パホル大統領は、スロベニア軍を称賛し、今後は軍の即応能力を高めるため、軍人の競争力強化が重要である旨述べた上で、予定されている防衛費の増加について言及した。スロベニア政府は、11日、本年の防衛費予算に関し2430万ユーロの追加を決定し、将来的にはNATO加盟国の目標であるGDP比2%に近づけるべく、今後10年の軍事費をGDP比1.2%まで増加させると約束した。2017年及び2018年の予算は、それぞれ3660万ユーロ及び3870万ユーロの予定である。

【外政】

●ベルギー首相のスロベニア訪問【5日】

5日、ツェラル首相は、スロベニアを訪問中のミシェル・ベルギー首相と首脳会談を行い、二国間の政治経済関係は極めて良好であり、両国は、強固で、未来志向且つ加盟国の開発を促進していくEUを支持するグループに属しているとの認識で一致した。また、両首相は、Brexit交渉及び英国離脱後のEU27ヶ国の団結の重要性を強調した。ツェラル首相が、シェンゲン協定加盟国域内における暫定的な国境審査の導入に反対する意向を示したのに対し、ミシェル首相は「スロベニアはシェンゲン規則を遵守する強力かつ従順なEUのパートナーであり、シェンゲン域内での暫定的な国境審査延長に関するスロベニアの立場を支持する」との考えを示した。また、ミシェル首相は、パホル大統領とも会談した。

●エリヤヴェツ外相のドイツ訪問【9日】

ドイツを実務訪問したエリヤヴェツ外相は、ガブリエル独外相と会談し、スロベニア・ドイツ外交関係樹立25周年を記念し、両国間対話を設けることで合意した。合意された新たな二国間枠組みでは、共通の関心分野における協力及び欧州レベルでの政治協力促進、並びに国際問題に関する意見交換が行われる。両外相は、EUの将来や難民問題等につき議論し、西バルカン諸国のEU加盟については安全保障や欧州地域の安定の観点から重要であるとの認識で一致した。

●欧州理事会、シェンゲン域内における暫定的国境審査の延長を決定【10日】

10日、欧州理事会は、欧州委員会の提案に基づき、スロベニア・オーストリア間の国境も含む、シェンゲン域内における暫定的国境審査を6ヶ月間延長することを決定した。導入に反対したのは、スロベニア、

ハンガリー、スロバキア、ギリシャ及びクロアチアであり、ポーランド、キプロス及びブルガリアは棄権した。

イタリア政府は、5月26日から27日にかけて開催予定のG7サミットを控え、対スロベニア国境も含む、他のEU諸国との間での国境審査を暫定的に再導入した。今回の措置は、5月30日まで継続され、国境通過にはパスポートが必要となった。



(写真：Andreja Seršen Dobaj/STA)

●新たに3箇所の大使館を開設【11日】

エリヤヴェツ外相は、本年中にUAE、モロッコ及びブルガリアの3箇所に大使館を開設する考えを示した。また、現在53公館中23公館のみに貿易アドバイザーが配置されていることを受け、今後毎年3~4人のアドバイザーを任命し、全公館への配置を目指す旨述べた。また同外相は、中央アフリカ地域での新規公館開設準備を来年より開始する旨述べ、旧ユーゴの公館を継承したタンザニアでの公館開設が有力であり、アフリカ南部を管轄する。

●経済開発・技術大臣及び農林食糧相、中国訪問【12日、19日】

12日、ポチヴァルシエク経済開発・技術大臣は、国際フォーラム「一帯一路」への出席のために中国を訪問した。同省によれば、今回の大臣訪中は、中国との間の経済協力強化及び「一帯一路」政策における中国と中東欧諸国との協力枠組みの中でのスロベニアの役割強化が目的であると発表した。

19日、中国訪問を終えたジダン副首相兼農林食糧相は、前年の対中輸出の80%増加、両国間の要人往来活性化等、様々な分野で目に見える成果が出ていると強調し、経済分野を超えた協力の一例として雲南大学とカルスト研究所との科学・教育分野での協力を挙げた。また、同大臣は、電動インホイール・モーター製造会社「Elaphe」社と中国企業の合

弁による製造拠点の操業開始式典に出席し、「本件投資は、スロベニアの知識・技術を中国の自動車市場、ひいては世界市場に展開していく上での成功例である」として賞賛した。

●スロベニア、アフリカとの関係強化【18日】

18日から2日間、ブルドー国際会議場で開催されたアフリカデーにて、エリヤヴェツ外務大臣は、本年は、過去最高の約半数のアフリカ諸国からの参加を得たことは本会議への関心が高まっていることの現れであるとした上で、スロベニアは「対サブサハラ・アフリカ協力の枠組」を策定中であり、また、スロベニア企業のアフリカ進出が進んでおり、スロベニア政府がアフリカとの協力強化に非常に高い関心がある旨述べた。また、同大臣は、EUが2017年をアフリカ年として定めていることに言及し、EUの一員としてスロベニアもアフリカ開発を更に後押ししていくと述べた。



(写真： Bor Slana /STA)

●パホル大統領、グテーレス国連事務総長と会談【22日】

ニューヨークを訪問中のパホル大統領は、グテーレス国連事務総長と会談した。パホル大統領が、「スロベニアの国連加盟25周年は、重要なモメンタムであり、スロベニアはこの25年で、国際社会の平等なメンバー以上の存在となった」と述べたのに対し、グテーレス事務総長は、「スロベニアは、人権分野で驚くべき成果を挙げている生き生きとした民主主義国家であり、西バルカンにおける安定及び平和の柱である」と述べた。

●パホル大統領、プーチン大統領と電話会談【26日】

パホル大統領は、スロベニア・ロシア間の外交関係樹立25周年を記念して、プーチン・ロシア大統領と長時間電話会談を行った。プーチン大統領は、パ

ホル大統領に対し、スロベニアの国家承認に祝意を表明したのに対し、パホル大統領は、1992年5月のロシアによる国家承認に謝意を表明した。両者は、現在の困難な国際環境にも拘わらず、両国の関係及び両大統領の個人的な関係は良好であり、経済関係強化に向けた更なる機会が開かれつつあるという認識で一致した。また、プーチン大統領は、2月のパホル大統領の訪露の際に協議された、6億ユーロ相当のガス供給に関する合意は近日中に履行されるであろうとの立場を伝達した。

●エリヤヴェツ外相、トルコ訪問【31日】

31日、トルコを訪問したエリヤヴェツ外相は、チャヴシュオール外相と会談し、二国関係強化、EU・トルコ関係及び地域情勢につき意見交換を行った。二国間関係につき同外相は、経済関係強化の重要性を強調し、特にウインターツーリズム等の観光は潜在性の高い分野であると述べた。また、同外相は、EU・トルコ関係につき、問題解決のための建設的対話の重要性を強調すると共に、難民問題対処のための共同行動計画を履行することはスロベニアの戦略的利益であると述べた。

これに対し、チャヴシュオール外相は、本年9月のブレッド戦略フォーラムへの出席及び7月にスロベニア議長国の下で開催されるSEECF(南東欧協力プロセス)非公式閣僚会合への出席を確認した。

経済

【マクロ経済・統計】

●Moody's 及び Fitch、主要3銀行の格付けを引上げ【4日、5日】

5日、大手格付け会社の Fitch は、スロベニア主要3銀行の最新の長期格付けを発表し、新リュブリャナ銀行(NLB)の格付けを BB- から BB+ に、Abanka を BB から BB+ に、マリボル信用銀行(NKBM)を BB- から BB にそれぞれ上方修正した。同社は、引き上げの理由として、進行中の企業部門の構造改革や銀行部門の資産リスクの低下によるスロベニアの経済環境の改善をあげている。また、Moody's も今後2か月以内に最新の格付けを発表する予定であり、格付けを引き上げると見込まれている。

●欧州委春期経済統計の発表【11日】

欧州委は春期経済統計を発表し、2017年のGDP成長率を3.0%から3.3%、2018年を3.0%から3.1%とし、冬期予測よりそれぞれ上方修正した。

経済成長の要因は従来の輸出に加え、家計消費及び投資によるもので、労働市場の改善により内需が拡大しているとした。また、本年の財政赤字を対GDP比1.4%、2018年は1.2%へと下方修正した。これにより、2018年の累積公的債務は対GDP比75.5%まで減少し、ユーロ圏平均の89%を大きく下回る見込みである。

●IMF、スロベニアの更なる改革を提言【15日】

国際通貨基金(IMF)は、対スロベニア年次レビュー報告の中で、2020年までにスロベニア政府の財政赤字を解消するためには、更なる構造改革、民営化の促進、及び財政改革が不可欠である旨述べた。具体的には、NLBやアバンカ(ABANKA)銀行の民営化を歓迎するものの、政府がNLBの株式を保有することに懸念を示したほか、ガバナンス強化及び効率化のために民営化対象となり得る国営企業の範囲を拡大し、若者に対する長期的かつ柔軟な雇用を創出するための労働市場改革を推進するよう呼びかけた。

●第1四半期のGDP成長率5.3%を記録、失業率は7.8%へ低下【31日】

統計局によると、第1四半期のGDP実質成長率は年換算5.3%、2008年(6%)以来の大幅成長を記録した。成長をけん引したのは、国内消費及び資本投資であり、消費では、特に家計による耐久消費財の購買が急成長した。資本投資では、非住宅用ビルの建設投資が22.6%増加した。

第1四半期労働調査の結果によると、失業率は7.8%を記録し、前年比1.1%ポイント減少、失業者数は7万9000人。また、労働力人口93万5000人のうち、66万3000人がより安定した無期限契約の雇用であった(前年比5.3%増加)。なお、長期的な失業率(労働力人口のうち、一年以上失業している割合)は、3.7%へ減少(前年は4.9%)。

【金融・企業関係】

●スロベニア及びクロアチア企業、共同でオリーブオイルを保護【4日】

イストリア地域のスロベニア及びクロアチアのオリーブオイル生産業者は、同地域のエキストラバージン・オリーブ・オイルにつき、共同でEUの原産地呼称保護制度(PDO: Protected Designation of Origin)に申請することを決定した。2007年に、同



地域のスロベニア企業のオリーブ・オイルは既にPDOを取得済みだが、2015年、同地域のクロアチア企業による申請に対して、スロベニア側は、類似する名称が混乱をきたすとして異議を申し立てていた。今回、交渉の末、イストリア地域に存在する両国のオリーブオイル生産企業は、共同のPDO取得することが、よりグローバルな広報効果に寄与し、ひいては総生産量が増加することに繋がるとして合意した。PDO取得には、約3か月掛かるとされている。

スロベニアに迫る！⑤
オリーブオイルの生産



スロベニアには、2000ヘクタールの土地に、2000から2500戸のオリーブ農家があると推計されており、その年の収穫により、4,000トンから6,000トンのオリーブを生産、500トンから700トンのオリーブオイルを生産しています。

2016年のオリーブオイルの生産量は、全世界で320万トンと推計され、その内スロベニアの生産量は500トン。なお、スロベニアにおける消費量は2,000トンと推計されており、消費量の75%が輸入されている計算となります。

比較して、2016年のクロアチアのオリーブオイル生産量は5,500トン。その約半分がイストリア地域で生産されています。

スロベニアのほうがクロアチアより生産量が少ないですが、今回のPDO取得により、両国での生産販売が促進されることが期待されます。

世界のオリーブ生産量(2016年)

	国名	生産量 (トン)	
1	スペイン	1,400,000	44%
2	イタリア	475,000	15%
3	ギリシャ	320,000	10%
:			
24	クロアチア	5,500	0.17%
27	スロベニア	500	0.02%
	合計	3,200,000	100%

(出典: スロベニア農業省、International Olive Oil Council)

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費に関する法案をめぐる動き【8日、15日、16日、22日】

8日、国民議会(下院)は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線の建設費用を、EU基金、内陸国からの財政貢献、コペル港の特別使用料の徴収等により調達することを内容とする法律を、賛成49票、反対25票で再可決した。

15日、同調達法の履行に反対する市民団体「Taxpayers Standing Our Ground Initiative」は、同法の履行を無効化するための国民投票実施に向けて必要な第1段階の署名4,500名分を集めた。

16日、野党民主党(SDS)、左派連合(ZL)及び新スロベニア(NSi)は、上記調達法の履行停止を求める国民投票実施に必要な4万の署名獲得を支持する方針を明らかにした。

22日、コペル市議会は、同調達法の発効に反対する宣言を採択した。ポポウィッチ市長は、第2路線建設の必要性を強調しつつも、同法は利権を有する者の汚職に繋がり、本件の運用のために設置される特別目的会社「2TDK」は不要と述べ、また、コペル港湾会社からの特別使用料の徴収に反対を表明した。

●スロベニア主要企業、第1四半期の業績発表【11日、12日、19日、24日】

新リュブリャナ銀行(NLB)グループ: 8160万ユーロの純利益を記録(前年同時期比56%増)。

コペル港湾会社(Luka Koper): 1390万ユーロの純利益を記録(前年同時期比16%増)。積替え貨物量は、前年同時期比9%増の610万トンを記録。

ペトロール(Petrol、石油製品等): 1610万ユーロの純利益を記録(前年同時期比15%増)。

メルカトル(Mercator、小売業): 100万ユーロの純利益を記録(前年同時期比64%増)。売上高は、非主力ビジネスの売却等により前年同時期比7%減。

ゴレニエ(Gorenje、家電製造・販売): 210万ユーロの純利益を記録(前年同時期比3倍増)。売上高は、前年同時期比7%増の3億60万ユーロを記録。

●安川・リストロ社の業績アップ【15日】

欧州安川電機の子会社である安川・リストロ社及び安川・スロベニア社は2016年の業績を発表した。安川・リストロ社の売上げは、対前年比で0.9%増の3000万ユーロとなり、安川スロベニア社(設計・企画・営業)の売上げは対前年比で20%増の約470万ユーロとなった。なお、同社幹部によると、コチエヴェ市における新工場建設の準備も順調に進んで

おり、現在建設許可の承認待ちだが、計画どおり本年秋頃に建設が開始される予定である。

社会・文化・スポーツ

●ポランツ選手、ジロ・デ・イタリア第4ステージ1位【9日】

毎年5月にイタリア全土を舞台にして開催される、自転車プロロードレースのジロ・デ・イタリア(Giro d'Italia)にて、スロベニア人のヤン・ポランツ選手(Jan Polanc)がエトナ山頂上をゴールとする第4ステージ(181Km)で、1位を獲得した。ヤン選手は2015年の大会でも152Kmのステージで1位を獲得しており、今回2度目の勝利となった。また、スロベニア全体では、これまで同大会で合計4勝を誇っている。



(写真: Nebojša Tejić/STA)

●2016年犯罪統計の発表【12日】

スロベニア警察は、2016年の犯罪統計を発表した。統計によると、2016年中の犯罪認知件数は6万1,574件で、過去10年間の平均よりも26.6%低く、検挙率は48.3%で、過去10年間の平均よりも0.1ポイント低い。犯罪による死者数は43人で、前年よりも13人減少し、交通事故による死者数は130人で、前年よりも10人減少した。主な警察関連事案としては、移民の流入、警察官2名の殉職、警察官によるストライキがあった。

●スロベニア、EUで2番目に高い自殺率【17日】

ユーロスタット統計によると、2014年、スロベニアは、ラトビア及びハンガリーと共に、リトアニアに次いでEU圏内で第2位の自殺率を記録した。他方、自殺率の最も低かったのは、ギリシャとキプロス。同年、スロベニアで自殺件数は395件、内330件が男性であった。スロベニア自殺研究センターのポドロガル氏は、「自殺の多くは高齢の男性によるもので、ほか

のリスクグループは、心的外傷を受け飲酒や麻薬問題等を抱えた人々である」と述べた。なお、スロベニアでは過去30年間で、自殺件数が約3分の2減少している。

●スロベニアでの観光客、前年比10%増【18日】

統計局の発表によると、2016年のスロベニア国内外からの観光客数は、431万8000人を記録、前年比9.9%の増加となった。外国からの観光客の到着件数は約303万件と前年比12%の増加であった。

スロベニアに迫る！⑤

外国からの観光客数(2016年)

	観光客の出身国	到着人数		延べ宿泊者数	
		件数	前年比(%)	件数	前年比(%)
1	イタリア	523,779	108.1	1,144,556	108.6
2	オーストリア	311,183	110.1	834,307	107.7
3	ドイツ	307,410	108.9	820,628	107.7
4	クロアチア	152,981	112.1	352,042	110.2
5	韓国	113,615	122.9	125,089	125.3
6	イギリス	109,420	116.5	318,656	113.9
7	セルビア	102,850	118.3	249,105	112.9
8	ハンガリー	101,180	119.7	261,348	122.4
9	オランダ	95,490	112.4	320,219	105.7
10	チェコ	91,596	116.7	230,356	117.3
11	フランス	91,202	109.3	195,171	111.0
12	アメリカ合衆国	81,167	109.2	182,700	110.6
⋮					
26	日本	29,474	79.2	46,347	83.1
	合計	3,032,256	112.0	7,342,118	111.0

(出典:スロベニア統計局)

2016年の外国人観光客の到着人数は、イタリア、オーストリア、ドイツ及びクロアチアに続き、韓国が第5位となっています。延べ宿泊者数は、欧州各国からの旅行者が多く、ロシアを含む欧州の合計は外国人延べ宿泊者数の約9割を占めました。

日本からの旅行者数は、到着人数で約2万9000人(前年比20.8%減、第26位)、延べ宿泊者数で約4万6000人(前年比16.9%減)となり、それぞれ外国人旅行者全体の1.0%、0.6%でした。

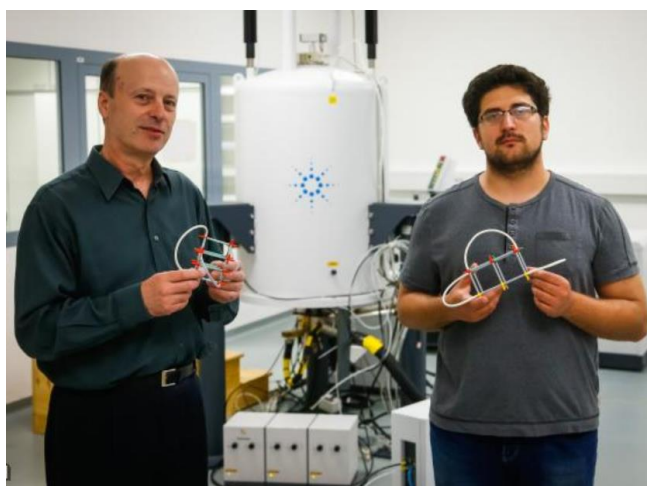
なお、2016年はヨーロッパ全体への日本人訪問者数が厳しい状況にあった状況を打破すべく、昨年

10月、スロベニアを含む16のEU加盟国が集まり、初めての「ヨーロッパ・ツーリズム・メディアワークショップ」を開催し、自国の魅力をアピールする場となりました。

(出典:駐日EU代表部公式ウェブマガジン)

●スロベニア人科学者、新たな4重らせん構造のDNAを発見【18日】

18日、化学研究所(Chemistry Institute)の博士課程の学生であるコツマン氏(Vojč Kocman)及び指導官のプラヴェツ氏(Janez Plavec)は、新たな4重らせん構造のDNA発見に関する論文をネイチャー紙にて発表した。両氏は、「AGCGA 4重らせん構造」と称されたこの構造が、自閉症、てんかん、統合失調症や骨肉腫等に関係する遺伝子に存在することが判明しているが、現時点において本発見の実用的応用を検討するのは時期尚早であり、更なる研究の積み重ねが必要であると述べた。



(写真: Anže Malovrh/STA)

● バレーボール男子世界選手権への出場決定【28日】

28日、スロベニア男子バレーボールチームは、2018年にイタリア及びブルガリアで開催されるバレーボール世界選手権への出場国を決めるための予選である欧州選手権にて、Cグループの全5カ国(ジョージア、ラトビア、ポルトガル、イスラエル、ベルギー)を制し、グループ内で1位を獲得した。最終のベルギー戦は、それまで双方とも4勝しており、接戦であったが、スロベニアが4セット目で優位に立ち、勝利を収めた。この結果により、スロベニアチームにとって初の世界選手権出場を獲得、選手権においてもまた歴史的達成が期待できる。

発見！スロベニア さくらんぼが美味しい！

毎年5月と6月は、さくらんぼの季節。スロベニアでも各地で栽培されていますが、最も美味しいと言われているのが、ワインの生産地でも知られる西部のゴリシュカ・ブルダ (Goriška Brda) 地域。



リュブリャナ市内のマーケットで

この地域一帯は、アドリア海から流れ込む暖かい空気とユリアン・アルプスからの冷たい風が混ざり合い、古くから、さくらんぼ等果樹栽培が盛んです。

また今年6月3日から「さくらんぼ祭り」を開催。さくらんぼの丘を巡るハイキングやリュブリャナ市からブルダへ向かう自転車マラソンなどイベントで盛り上がります。

赤く色づいたゴリシュカ・ブルダのさくらんぼは、シャキッとした食感で、爽やかな甘酸っぱさが特徴です。季節になると、リュブリャナ市内の青空マーケットでも山積みになって売られます。値段は、粒の大きさによって、1キロあたり4ユーロから6ユーロとお手頃。「200グラムください！」と言うと、売り主のおばさんが、笑顔で紙袋に詰めてくれます。

スロベニアでは、さくらんぼをそのまま食べるだけでなく、ビーフステーキのソースに使ったり、ジャムを作ったりします。オーストリアでも有名なパイ菓子、シュトルーデルにも使われ、その鮮やかな色合いが目を引きま



シュトルーデル

(参考: <http://brda.si/eng/>)

小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第2回 ドゥヴェリ・パックス (Dveri Pax)



白ワイン

オーストリアとの国境に程近い町・ヤレニナ (Jarenina) にあるワイナリー「ドゥヴェリ・パックス (Dveri Pax) (古代スロベニア語で「平和への扉」という意味。)」は、73ヘクタールのブドウ畑を所有しており、泥灰質土・ローム質土(砂と粘土が混じり合ったもの)・砂質土の各畑で、様々な品種

のブドウが自然のままに丹精込めて栽培されています。

そのブドウから作られる幅広いラインナップのワインは、手作業による丁寧な製法と高い品質が魅力で、2011年にはイギリスで開催されたデキャンター・ワールド・ワイン・アワードにおいて、フルミント(シボン)種の白ワインが最高賞(International Trophy)、2014年にも、最高賞に次ぐ賞(Regional Trophy)を受賞しています。

また、周辺地域は冷涼な気候のため、主に白ワインの生産が盛んですが、同ワイナリーでは上質な赤ワインも生産しており、ピノ・ノワール(Modri Pinot)及びブラウフレンキッシュ(Modra Frankinja)は高い評価を得ています。

このワイナリーの歴史は、12世紀初めにこの地を治めていた領主ルドルフ・ヴィッテンスワルトがヤレニナ館周辺の土地を教会に寄進したことに始まります。寄進後の土地は、ザルツブルグ大司教コンラッド1世の命によって、アドモント(現オーストリア共和国シュタイアーマルク州北部の町)のベネディクト修道院に属することとなり、同修道僧らによってブドウの栽培からワインの生産が開始されました。

2007年には、大規模な改修工事が行われ、最新設備を誇る現代的なワイナリーとなり、伝統的な醸造方法と近代的な技術を組み合わせる醸造されるワインは、豊かな樽の香りと、異なる土壌で栽培された各ブドウ品種の素晴らしいハーモニーが感じられるものになっています。



連絡先:

DVERI-PAX d.o.o.

HP: www.dveri-pax.com/en/,

Email: office@dveri-pax.com

ヤレニナ館

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●第6回「JAPAN DAY 2017」

今年は Genki Center と当館の主催に加え、国立博物館や民俗学博物館、キノテカとの協力により、メテルコヴァの博物館に囲まれた屋外広場で開催致します。出展内容やプログラム等の詳細は、当館ホームページや Japan Day 公式フェイスブックをご覧ください。

○日時: 6月10日(土) 午前10:00～午後17:00

○場所: メテルコヴァ博物館前広場(住所: Metelkova ulica 2, 1000 Ljubljana)

フェイスブック: <https://www.facebook.com/events/465018323841131> (スロベニア語)

●文化交流使・藤間蘭黄氏による日本舞踊レクチャー付公演

藤間流日本舞踊家の藤間蘭黄氏が文化交流使としてスロベニアを訪問します。3日間に亘り、日本舞踊に関するレクチャーを伴った公演が開催されます。

○6月19日 18:30～: プトウイ市 ドミニコ修道会教会ホール(住所: Muzejski trg 1, Ptuj)

○6月22日 19:00～: リュブリャナ市 ツァンカリエウ・ドム(住所: Prešerenova cesta 10, Ljubljana)

(注)リュブリャナ公演については事前要予約。予約方法については、後日当館のフェイスブックやホームページにてお知らせ致します。

○入場料: 無料

●伊藤真司氏 写真展

神奈川を拠点に活動している写真家・伊藤真司氏の写真展が開催されます。和紙と墨を使用したユニークな表現の「真墨画(しんぼくが)」をはじめ、風景や植物の心象写真を展示。

○場所: リュブリャナ市立シシュカ図書館(住所: Trg Komandanta Staneta 8, Ljubljana)

○会期: 6月15日(木)～6月24日(土) 予定

(注)初日15日は午後19:30よりオープニングイベントを開催します。

○入場料: 無料

●「武士道」展

日本の「武士道」に迫る展示会。スロベニア国立博物館所蔵の甲冑や刀剣類に加え、普段見ることが出来ない個人コレクションの関連作品も展示されています。スロベニア国立博物館メテルコヴァ分館(住所: Maistrova ulica 1, 1000 Ljubljana)にて、11月5日(日)まで開催中。有料(第一日曜は無料)。

●**ゴラズド・ヴィルハル写真展「日本の伝統にみられる精神の中で ～祭り～」**

日本文化をテーマにした写真を撮り続けているゴラズド・ヴィルハル(Gorazd Vilhar)氏の写真展。日本の伝統的な精神を感じることができる「祭り」がテーマになっています。スロベニア民俗学博物館(住所: Metelkova ulica 2, 1000 Ljubljana)にて、**9月8日(金)まで開催中**。有料。

●**NHK 連続テレビ小説「カーネーション」放映中**

著名な日本のファッションデザイナーであるコシノ3姉妹の母親・小篠綾子氏の生涯を描いたドラマが、RTV スロベニアにて好評放映中。

○**放映チャンネル**: TV SLO 1 (TV SLO 2 にて週末再放送あり。)

○**放映日時**: 月曜～金曜 12:20～13:00 (2話ずつ放映、全151話)

○**テレビ番組表**: <http://4d.rtv slo.si/program> (スロベニア語)

【領事班からのお知らせ】

●**スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。**

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●**「たびレジ」をご利用ください！**

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご利用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご利用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●**すり被害が急増しています！**

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所が多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ鉄道駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、**ブレッド城でも被害の発生がありました。**

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れないようにし、何か異変を感じたらすぐに確認してください。